

# 大阪産業創造館ネットモニター調査 -No.8 '13年3月期-

(ご協力いただいたモニター数: 117社、調査時期: 2013年4月8日～15日)

公益財団法人 大阪市都市型産業振興センター 経済調査室  
5/1 <http://www.sansokan.jp/tyousa/> tel:06-6264-9816

## 《3月の景況判断に関する要点》

### 「順調に持ち直しを継続、見通しは明るい」

- 3月の景況(前月比)をみると、「上昇・好転」したとする回答の割合が増加して(「下降・悪化」は減少)、DI\*は前月に引き続き大幅に改善し+17.9(図1)。従業者規模が大きいほど好転している企業が多い(図なし)。
- 「上昇・好転」した理由は、「時期的、季節的な要因で」と「内需が増大したから」がともに4割台。他方、「下降・悪化」した理由は「内需が減少したから」が6割台(図なし)。
- 3ヵ月後(6月)の見通しでは、「上昇・好転」が4割以上を占め、DIは+24.8。3月のDI(+17.9)と比べて6.9ポイント上昇(図1)。ただし、「下降・悪化」も僅かに増加。
- 3月の前年同月比をみると、「上昇・好転」、「横ばい」が増加、「下降・悪化」が減少し、DIは上昇して-1.7となりプラス水準に近づいた(図1)。

\*DI(Diffusion Index)「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

## 《アベノミクスに対する評価》

- アベノミクスの効果について、「今のところ、具体的な効果は表れていないが、今後、効果が期待される」が4割で最多。「・・・期待される」とする割合を企業規模別でみると、5人以下の企業で3割、5～50人で4割、51人以上で5割以上と、規模が大きくなるほど高くなっている(図2)。

(裏面へ続く)

図1 景況判断

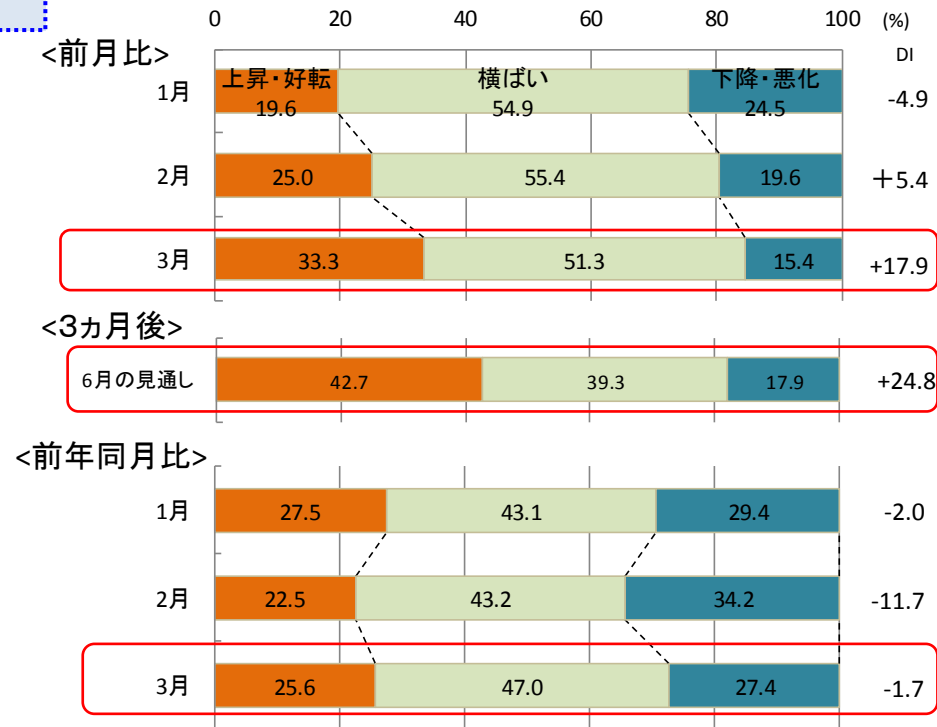
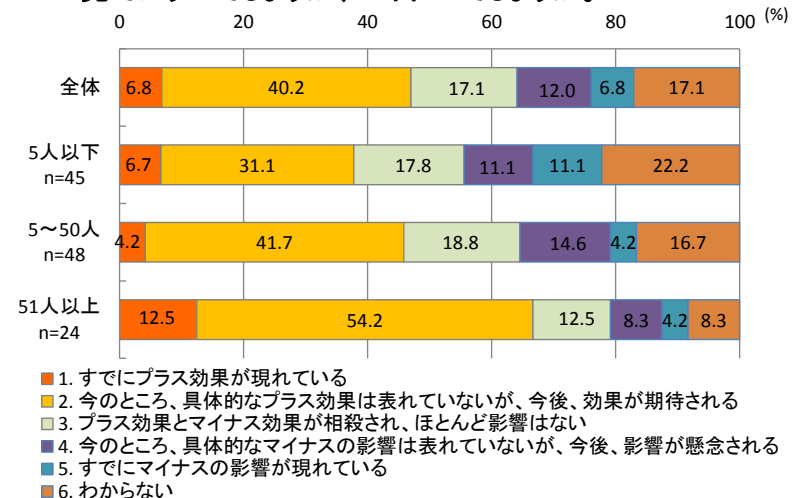


図2 貴社の事業にとって、アベノミクスの効果は総合的に見てプラスでしょうか、マイナスでしょうか。



## 《アベノミクスに対する評価》

※前頁からの続き

・アベノミクスによる影響の要因は「漠然とした景気浮揚期待」が4割弱で最多。次いで「為替レートの円安への水準訂正」が3割強。他の回答については2割以下(図3)。

・需給ギャップの状況について、「把握できていない」が最多となっているが、次いで「現在も今後も供給量の方が多い状況が続くことになろう」が3割弱を占め、依然として厳しい状況がうかがわれる(図4)。

・従業員の賃金等の上昇・増額について、「当分の間、利益の改善が期待できず、現状では判断できない」が最多(図5)。業種別では、製造業よりも非製造業でやや厳しい。

図3 アベノミクスによる効果や影響は主としてどの政策要因によってもたらされるものでしょうか。[複数回答可]

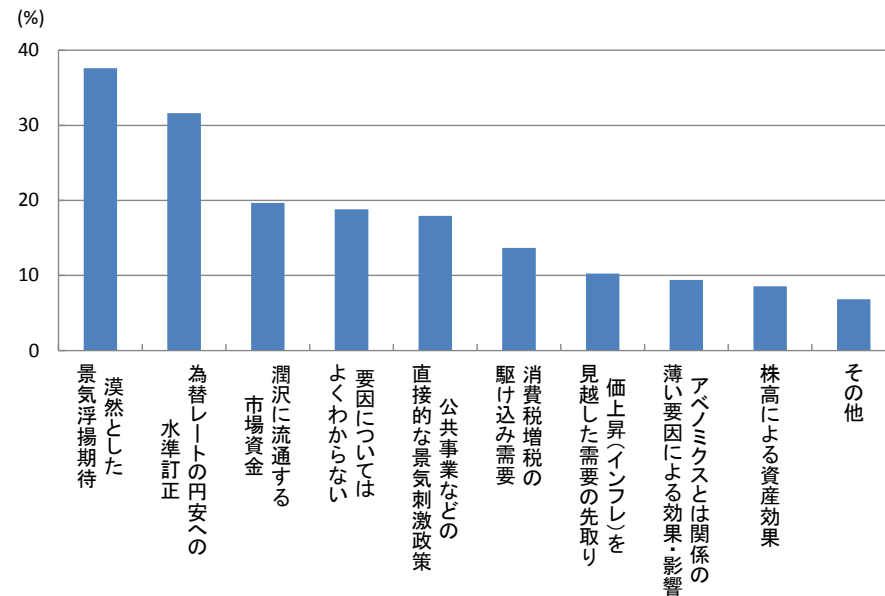
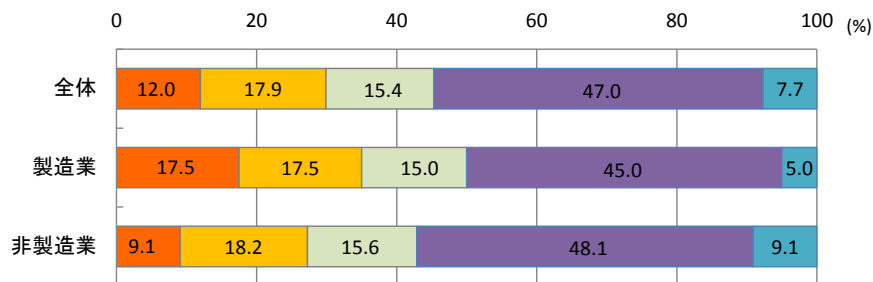
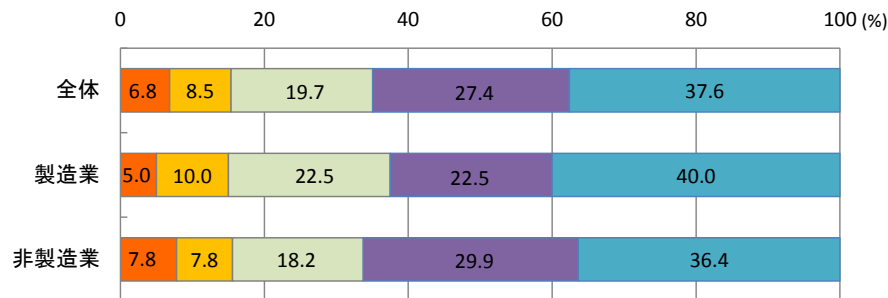


図5 アベノミクスが経済に好循環をもたらす上で、従業員の賃金・賞与の上昇・増額が不可欠と言われますが、貴社の営業利益が改善してゆく状況を想定すれば、従業員への還元の優先度は次のどれに近いですか。



1. 人材の引き留め策の観点からも、従業員への還元を他社よりも強力に最優先で施すつもりである
2. 消費者物価が上昇し始めている時点であれば、それに見合う還元を最優先で施すつもりである
3. 従業員には待ってもらい、設備投資や研究開発投資などを優先させて好業績の持続を主眼とする
4. 当分の間、利益の改善が期待できず、現状では判断できない
5. その他

図4 デフレ経済の理由で大きなものとして、需給ギャップが指摘されていますが、貴社の主要事業分野における需給ギャップはどのような状況に近いでしょうか。



1. 需要量が上回っている
2. 今のところ、供給量の方が多いが、今後、需要量が上回ることが期待される
3. 今のところ、供給量の方が多いが、今後、需要量とほぼ均衡することが期待される
4. 現在も今後も供給量の方が多い状況が続くことになろう
5. 需給ギャップの状況に関しては把握できていない

## 《 今後、期待する政策 》

・多くの意見をグルーピングした結果、総じて言えば「景気回復促進」を期待しており、3本目の矢である「成長戦略」に関連しそうなものが大半を占めている。

・その内容を要約すると、規制緩和やTPP推進、減税といった政策フレームを整えることで、消費活発化を促進し、それが中小企業支援や新産業創出、民間投資促進などにつながることを期待している。また、外需獲得の政策も期待が大きい。

図6 今後、期待する政策 [自由記述]

